



茨 歯 会 報

No.600

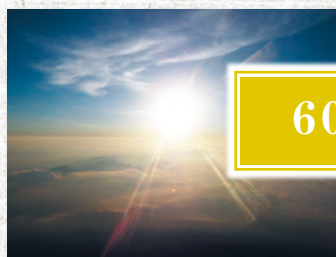
茨城県歯科医師会
ibaraki Dental Association



June
2019
令和元年

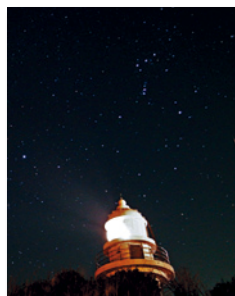
6

600号記念



Contents

茨歯会報 600 号記念	1
森永 和男	
征矢 亘	
黒澤 俊夫	
渡辺 進	
高野 一夫	
小舩 秀文	
小澤 一友	
柴岡 永子	
飯島 重樹	
理事会報告	10
会務日誌	12
地域保健委員会だより	14
健康フォーラムだより	17
専門学校だより	19
地区歯科だより	21
寄稿	22
柴原 宏一郎	



表紙写真について

茨歯会報 表紙 501号～599号

2010年10月号から2019年5月号までの表紙写真を並べてみました。

すばらしい写真の投稿ありがとうございました。

ホームページアドレス

<http://www.ibasikai.or.jp/>



発刊600回記念号に思うこと

会長 森 永 和 男

この度茨歯会報が600号を発刊するにあたって茨城県歯科医師会の歴史をあらためて感じる思いです。

思い起こせば、私は昭和49年に茨城県歯科医師会に入会させて頂きました。当時は今のようにIT（ICT）の発達もなく、全て紙だしでの情報であったと思います。50年頃パソコンが初めて発売され、私の所にも知り合いの営業マンが実物を持ってセールスに来た記憶があります。その時の値段が確か450万円だったと思います。値段にもびっくり致しましたが、そのパソコンの大きさに更にびっくりした覚えがあります。その大きさだけで購入することを諦めました。そのパソコンが10年も経たずにノートパソコンとなりその進歩の早さにはおどろくばかりです。携帯電話も同じで、同じ頃、自動車電話が世に出、セレブの方が自慢げに電話をかけながら運転していたのも懐かしく思い出されます。この自動車電話も1年足らずと思いますが、携帯電話に取って代わりました。その携帯電話もスマホとなり、歩きながらもインターネットで情報を得ることができる時代となってしまいました。IT化の進歩はすさまじく、どこまでいくのか人間にとって怖い存在にすらなりつつあります。

しかし、その反面日本伝統の習慣、生活も変化し、経済至上主義のもとで、大家族制度から核家族へと変化し、親子の断絶、相手に対する思いやりも少なくなり、会話も減少し、お互いをつなぐ絆もなくなりつつあるのも確かであります。その結果として虐待の問題、殺傷事件、世界を見ますと国と国との諍いがグローバル化によって生じております。

人間の砂漠化が起こりつつあるのです。この現象は私たち歯科医師会にあっても同じ事が言えます。ITの発達によって個人プレーの考え方が蔓延し、結果的に組織力の弱体化が生じてきていることは否めません。確かにIT（ICT）の発達が人間にとって素晴らしい恩恵をもたらしている事は事実でありますので、IT（ICT）と人間のあるべき姿との調和がとれないものかと考えざるを得ません。

この解決策の一つがアナログ的な考え方ではないでしょうか。本を含めた紙だし、活字から来る創造性ではないかと感じております。この様な時代だからこそ、茨城県歯科医師会会員にとって会報の役割は大きいのではないかとつくづく思いながら600号発刊に思いをよせて筆をとっております。

今後とも逆境を乗り越えて、真の人間形成に茨歯会報が役に立つ事を祈念して挨拶いたします。

茨歯会報永遠あれ。



茨歯会報600号発刊に寄せて

副会長 征 矢 亘

会報発刊600号おめでとうございます。

思い出すと、2010年（平成22年）9月に茨歯会報500号発刊記念誌に編集人として投稿し早や9年の年月が過ぎ、しかも記念すべき「令和」元年にまた600号発刊記念誌に投稿できますことは非常に感慨深いものがあります。10年ひと昔といいますが、本当に年月が過ぎるのは早いと感じております。

茨歯会報も大正12年10月の創刊号発刊以来、97年もの長きにわたり発刊が続いていることは、各時代の広報委員の先生方のご努力ならびに、多くの会員の先生方の投稿、寄稿のおかげで今日まで続いています。改めて感謝申し上げます。

私も、2007年4月No.461号から4年間発行のお手伝いをさせていただき、様々な改革をしたことを思い出します。印刷所の見直しによる経費削減で作成費を1/2にしたり、400号からの会報100冊をすべてデジタル化して、現在もHP上にて閲覧可能としました。また会報作成にあたりインターネットを利用し印刷所とオンタイムで作業が進めるようにしたことで、より正確な早い校正を可能にしたことなど、走馬灯のように目に浮かんできます。

また、一般会員にとっては県歯の活動を知る大切なツールの一つであり、多くの会員が熟読していることを考え、本会の非常に重要な事業の一つであります。今後より良い歯科医師会活動を行うにあたり、本会の情報伝達はいつの時代になっても大切な根幹を成すものであります。発行形態は今後変化していくでしょうが、情報そのものはいつの時代になっても変わりません。今後より早く、より正確で、より多くの情報伝達媒体としての役割が求められます。

今後さらなる発展を遂げ、700号800号の発行が楽しみです。きっとその時代には動画や音楽、さらには匂いまでも感じられる時代になっているのではないのでしょうか？

今後さらなる進化をすることをご祈念申し上げ、茨歯会報600号発刊のお祝いの詞とさせていただきます。



600号記念誌発刊に寄せて

副会長 黒澤 俊夫

600号記念誌の発刊、まことにめでとうございます。

およそ四半世紀前になりますが、300号記念誌の編集に広報委員長として携わらせていただきました。その当時の茨菌会報は、いまより小ぶりのB5版、表紙は趣のあるモノクロ写真で飾られていました。

その300号では、各支部の貴重な歩みを綴り、記念誌としての彩りを添えさせていただきました。また、対外PR等これからの広報委員会のあり方を模索しておりましたので、担当部長の石井謙二郎先生をはじめ、広報理事を歴任されました石川 誠（誌上参加）、福田守利、高崎康史の各先生方を囲んで広報座談会を企画致しました。その中で広報の基本姿勢について触れると、諸先生方から異口同音に記録性、情報の伝達、会員親睦が3つの柱にあると明確な答えが返ってきました。さらに大事なことは、本会としての格式を備え、会員が楽しみに待ってくれる会報、親しみの持てる会報、可愛がってもらえる会報でなくてはならないと強調されておりました。会報談義に始まり、とっぷりと日の暮れるまで諸先生方と多岐にわたるお話を伺えたことが今は懐かしく思い出されます。

また、300号記念誌には、創刊号（関東大震災直後、大正12年10月発刊）の復刻版を添えさせていただきました、産声を上げたばかりの創刊号、その萌黄色をした表紙の中ほどに淡いピンクのハートをあしらひ、小脇には白い柄の歯ブラシが配置されなんともおしゃれなデザインが施されていました。そしてその当時会長であられた佐藤宗明先生は、巻頭言で次の様に述べられていました。「一この秋にあたって会員相互の連絡を十分に達成して一致団結を図り、同時に真摯なる研究を共にするは急務中の急務ではなかろうか」まさに草創期の先達の奮い立つ息吹が伝わって参ります。

茨菌会報の歩みは大正に始まり、昭和、平成、そして令和へと連綿と受け継がれ、ほどなくして100寿を迎えようとしています。本会草創期から数多の先達から引き継がれてきた、そのたぎる情熱を継承し、これからも茨菌会報が、本会からの情報伝達はもとより、会員親睦の潤滑油となり、さらには広く県民に親しまれる広報誌となることを期待しております。



600号発刊に寄せて

専務理事 渡 辺 進

大正12年10月の発刊以来、昭和、平成、令和と4つの時代を生きながらえ600号に至ったことに、執筆、寄稿、報告を頂いた先生をはじめ、広報委員会の先生、印刷、発送業務その他に携わった全ての皆様のご尽力に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

500回記念誌（2010年9月）を見てみますと、この頃よりIT化、メールの使用などの事が話題に上がっています。現在では茨城県歯科医師会ホームページの会員専用ページの中、広報委員会の項目に2001年12月（400号）から現在に至るまでIT担当飯島理事のご尽力で、約200巻が収載され、いつでもどこでも会員であれば、ご覧いただけるようになっています。

IT技術の進歩でホームページに大量の資料が収納できるようになり、またそれを見る技術も進歩し、会報のファイルも瞬時に展開できるようになりました。

700号が発刊される頃には、収納する側のサーバーは量子コンピューターになり、見る側は有機ELの電子ペーパーになっているかもしれません。

こうして便利なハイテクに憧れる一方、一枚の紙にも愛情を感じています。A4一枚両面に散りばめられた文字には、一つの世界を感じます。特に日本語の場合仮名漢字混じりの文章は魅力的と思います。私は難しい漢字を使った文章は書けませんが、漢字の意味と仮名の流れが織りなす世界は、モニターで見るより紙で見たほうが、趣があると思います。

紙の文化は最後まで残ることと思います。しかし、資源や輸送保管や時間の関係で今と変わった時代が来るかもしれません。令和の時代が安生で会報が1000号まで続く事をお祈りします。

発行人でありながら実務は委員会の先生に任せきりである事をお詫びし、また600号に至る前の一時期担当職員の体調不良などにより、寄稿頂いた先生にご迷惑をおかけした事をお詫びしつつ、新たな会報に向けて600号をお祝いしたいと思います。



茨歯会報600号発刊によせて

茨城県歯科医師連盟会長 高野 一 夫

新しい時代の幕開けとともに茨歯会報が600号を発刊するはこびとなりましたこと、誠におめでとうございます。

会と会員を繋ぐ上で会報の果たす役割は、会員が情報を共有するという意味で重要であります。情報伝達の手段はますます変化していくと思いますが、紙媒体の細かいところまで気を配ったこの会報の良さもまた捨てきれないものではないでしょうか。

企画の中で、私にとって一番思い入れがあるのが保険部だよりです。それはこのコーナーが始まったのは私が社保委員会に属していた時でした。会員の先生方の保険請求における平均点数が低いということで、当時の担当部長の故小倉和夫先生の発案で始まり、原稿は部長の指名で委員が書き、必ず部長の校閲を受けて投稿したことが思い出されます。歯科診療は90%以上が公的保険によって実施されていることを考えれば会員の先生方には大いに役立っていることと思います。

現在のような情報化の時代において、情報収集の容易さはあると思いますが、明日の臨床に役立つ時代に即応した学術研修、会員の相互理解と親睦を深める場として、まだまだ会報の果たす役割は大切であると思っています。

茨歯連盟におきましても、連盟ニュースを発行しております。歯科医師会と連盟は現在別の組織として活動しておりますがアプローチの違いはあるものの目的は同じであり、両組織が融合してこそより良い歯科医療を実現できるのです。峻別は事務的な区別であり、本来同一の集団が別々の組織として便宜的に分かれているだけのものであり、目指すところは全く同じです。連盟ニュースを通して、連盟に対してご理解をいただきたく先生方との繋がりを深めていきたいと考えております。

最後になりましたが、広報担当の先生方的一方ならぬご苦労に心より感謝申し上げ、ますますのご活躍を祈念いたします。



茨歯会報600号発刊によせて

茨城県歯科医師国民健康保険組合理事長 小 船 秀 文

記念すべき第600号発刊おめでとうございます。

この原稿を書くにあたり茨城県歯科医師会史、100周年記念誌、水戸の歯科医師とその周辺、茨歯国保組合の歩みなどを繰り返し読みなおし昔の記録、先輩方のその時代、時代の行動に思いをはせ、いつの時代も、どの世代にも3“バカ”と言われる方々がいたと、改めて考え深いものがあります。これも昔の茨歯会報からの原稿でした。

1923年・大正12年の第1号発刊から今年で97年、今でこそ毎月発刊している会報ですが、当時は、その後金融恐慌、凶作など政情不安が続き、軍国主義の台頭を招き、やがて第2次世界大戦に向かう時期で本会・広報委員会？のご苦勞は大変なものであったろうと推察します。

400号が平成13年、500号が22年で今回600号が令和元年となります。

私が水戸市歯科医師会に関わったのが平成7年からでそれ以前の会の連絡は、ハガキに原稿を依頼して印刷に？それ以前はガリ版印刷で専務理事の仕事は大変だったと推察します。

私が専務になったのは平成9年、ワープロの時代でした。その後すぐにパソコンへ……専務理事手当てで購入しました。これで会務、事業記録がすべて保存できるようになりました。その後、FAXでの同報通信の時代になり会の連絡はずいぶん早くなり（FAXのエラーで再送信が大変でした）現在は、パソコンでのメール送信となり更に情報量の増大とスピードアップが図れましたが全部の会員がパソコンをできるわけではなくFAX併用も致し方なく現在に至っております。

各地歯科医師会でも会報が発刊されております。日立は「日立歯科医師会会報」、珂北は「珂北歯科医師会」（中断中）、水戸は「水歯だより」（年3回発刊、現在通巻84号）、鹿行は「鹿の郷」、東西茨城は「東西茨城歯科医師会報」、土浦石岡（「土浦石岡歯科医師会会報」—現在は委員会もない、土浦市歯科医師会は、「土歯瓦版」（現在51号））、つくばは「つくば歯報」（停止中、現在メーリングリストで送信）、県南は「霞南」、県西は「県西ジャーナル（旧「県西歯報）」）、西南は「茨城西南歯科医師会だより」です。

茨歯会報同様の会の連絡、事業・講演報告、当番表、連絡網などが記載されていますが何かないか？と考えたときに昔の駅の伝言板みたいなもの、会員同士の連絡グッズがあっても……例えば乳児・子供の風呂桶やベビーベッドの不要になったもの譲ります!! 犬猫の赤ちゃん譲ります!! このようなものがあってもいいではないかと思いますがいかがでしょうか？

この場をお借りして独り言を書きました。



600号発刊に寄せて

代議員会議長 小 澤 一 友

茨歯会報600号発刊誠におめでとうございます。

顧みると、私が昭和60年4月に教育委員会の一員として茨歯会に出向することになった頃の広報委員会は、日立支部の故石井謙二郎先生が担当されておられました。その後、水戸の高崎先生、県西の故福田先生、土浦の吉田先生、鹿行の鈴木先生と引き継いでこられた時代であったと記憶しております。委員会の開催された日々が、同日になったこともあり、その頃の担当理事の先生方には、委員会活動にあっては、先生方に色々のご指導頂いたこと、懐かしく、貴重な時間が様々に思い起こしております。

当時、広報委員会の先生方は原稿が集まると、発行の為に、多大なる時間を費やし、校正、編集に茨歯会に参集し、赤・青の色鉛筆を走らせており、文言の流れ、誤字などのチェックに目を凝らすアナログ真っ只中の時代で大変なことでありました。

B版からA版に装丁が変更されてからは、特に「講演会・研修会」の内容については、写真・図示を活用され、臨場感が溢れ、その場に参加している気持ちになり熟読させて頂いております。

また、「リレー通信」は、毎号楽しんでおるコーナーです。会員の先生方の交友関係は元より、それぞれの趣味の世界、心情、家族への思いなど、味わい深い文章に触れ、なかなか知り得なかった側面を感じさせていただけるGoodな企画であり、今後の展開を楽しみに待っている一会員であります。

大正時代の創刊より、激動の昭和、自然災害に見舞われた平成、そして、「令和」と変化してゆく歴史の中で、茨歯会報も時代の変遷に反映しながら、会員各位の情報源として、かつまた茨城県歯科医師会の「史記」としての務めを果たしてゆかれることを祈念致します。

改めて、600号の発刊を心よりお祝い申し上げますと共に、歴代の広報委員の先生方、そして現在の広報委員の先生方のご尽力に敬意を表します。



600号記念会報を発刊して

広報担当理事 柴 岡 永 子

新しい時代「令和」元年に記念すべき茨歯会報600号を発刊することになりました。

編集に携わるために平成22年（2010）の500号以前の記念号などを読ませていただきました。関東大震災後の混乱の大正に始まり、昭和、平成、そして令和の始まりと言う、第2次世界大戦そして高度経済成長期を経て少子超高齢社会の到来と共に、文化のパロメーターは紙の消費量と言う時代からペーパーレスITの時代に突入し、まさにそのスピードはパラダイムシフトの世界と言っても過言では無いと思います。

また個人の保存記録とは違い組織による情報発信と情報収集の積み重ねは、その連続性に大きな価値そして意義があります。

唯々その時々、会長、役員そして広報委員会の先生方のご努力と会員の先生方の絆に思いを馳せ、感謝と共に敬意を表するばかりです。機関誌が茨城県歯科医師会誌として創刊されて以来名称を茨城県歯科医師会報と改め、回を重ねて茨城県歯科医師会の事業を記録し、産官学の情報をいち早く収集し、県歯科医師会の膨大な事業を記録し、これらを適宜発信、広報、宣伝し会員相互の絆を構築することに大きな効果があったことからアーカイブとしての重要性も理解しました。

近年社会集団の脆弱化による会員組織率の低下等の問題があるとお聞きしていますが、会員相互の絆はまさに自分自身を守ることに通じており、将来の会報はどうあるべきか等の検討課題のなかにも創刊当時の発刊理念は脈々として息づいておりますので、AI（人工知能）に象徴されるネット社会との融合が課せられた重要課題であると思います。

歯科医業が歯そのものだけを対象にする時代は過ぎ、身体全体に関与する医療技術になった現在、ますます会員の目となり耳となり、自ら発信する口となる会報の重要性を感じると共に、時代の速い流れのなかでその価値観は常に変動しており、それに対応した編集でなければならないと感じております。記念号を機に会報創刊の理念などにも接し、会報の歴史と重要性を再認識しました。

令和は万葉集からとのこと、家持の「……いやしけ吉事」を念じながら、会報のさらなる充実と継続のために微力を尽くして参りたいと存じますので、今後ともどうぞよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



600号記念会報を発刊して

広報委員会委員長 飯 島 重 樹

新しい時代“令和”の幕開けとともに茨菌会報は600号を迎えることができました。

これも会員の先生方のご協力のおかげと感謝申し上げます。

最近まで600号は毎月の発行で“50周年”と思っていましたが、大正12年10月から97年の歴史があることを知りました。長い時間に試されながら会員と会員を繋ぐ会報の発行に携わる責務をあらためて感じています。

さて、編集の現場をご紹介します。

原稿〆切は毎月20日で印刷会社からメールでPDFが届きます。

校了までの1週間、委員が分担して校正を行うのですが、広報委員会のメーリングリストでは昼夜を問わずたくさんのメールが取り交わされます。印刷会社の担当の方のご協力もいただき、月末には会報が製本されます。事務局の方々による袋詰めを経て、月初めに先生方のお手許に届けられます。

因みに、この数年の印刷費は1年あたり約370万円、発行部数は1400部。毎月平均50ページ、1冊あたり220円となります。

広報委員や事務局の負担を考えると“働き方改革”そして“効率化”も考えていきたいところです。

一方で、この2年間は新しい企画がないまま時間が過ぎてしまいました。会報は県単位で、他県と横のつながりが少ないため、他県の会報を参考に新しい企画を練るなど今後の課題としていきたいと思っています。

話題となっている印刷物のIT化は、現在のところ会報のPDF配信のみとなっています。

学会誌などはカラーで分かりやすい図表や動画、情報発信の迅速化を目的に電子版が普及しています。未来の会報も形を変えていくことと思います。

あと3年で創刊から一世紀を迎える茨菌会報をより良いものとするため、引き続き先生方の積極的なご参画をお願い申し上げます。

理事会報告

第1回理事会

日 時 平成31年4月18日（木）4時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 増本章典

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 開業予定の歯科医院について

(4) 河内町医療福祉費支給制度（町単独事業分）
への公費負担者番号導入について

(5) 第55回いばらき看護の祭典への後援について

(6) 働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律の周知について

(7) 平成30年度県委託事業・補助事業について

(8) 平成31年度（2019年度）モデル地区でのフッ化物応用推進事業への協力について

(9) 関東信越厚生局地方社会保険医療協議会に関する連絡協議会の開催について

(10) 委員会報告

厚生委員会、医療管理委員会、広報委員会、地域保健委員会、介護保険委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

4. 協議事項

(1) 入会申込みの受理について

小澤 稔史先生	珂北地区	2種
	日歯大卒	承認
根本 弘子先生	珂北地区	2種
	九歯大卒	承認
根本 賢治先生	土浦石岡地区	1種
	神歯大卒	承認
寺田 和浩先生		準会員
	東北大歯卒	承認

(2) 日本歯科医師会会長表彰候補者の推薦について

森永会長に一任することで承認

(3) 2019年度日本学校歯科医会会長表彰被表彰候補者の推薦について

森永会長に一任することで承認

(4) 平成31年度（令和元年度）日本歯科医学会会長賞授賞候補者の推薦について

森永会長に一任することで承認

(5) 働き方改革の講習会開催についての要望書について

講習会ではなく会員に通達することで承認

- (6) 第23回公益社団法人日本顎顔面インプラント
ト学会総会・学術大会の後援について
承認

- (7) いばらき国体出展ブースでの歯科啓発活動
事業について
承認

- (8) 茨城県歯科医師会役員選挙実施要領（案）
について
承認

(9) その他

○行事予定について

平成31年4月21日（日）
13時から 健康フォーラム
（常陽藝文ホール）

令和元年5月16日（木）
16時から 第2回理事会

令和元年6月6日（木）
16時から 第3回理事会

令和元年6月20日（木）
14時から 第166回定時代議員会
（代議員会終了後）第4回理事会



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
**SIGNO
NEXT**



これまでも、これからも、いっしょに
Iwase Dental Supply JNC, Inc.

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

■ 社名 株式会社 岩瀬歯科商会

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 本社 〒320-0800 栃木県宇都宮市平出工業団地37-6

■ 電話 028-613-5858

■ FAX 028-613-5859

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

製造販売・製造

株式会社モリタ東京製作所

本社 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL 03-5561-1315

伊東工場 〒350-0192 埼玉県比叡良田市伊東1-1-1 TEL 048-882-1315

発売

株式会社モリタ

大阪本社 〒545-0051 大阪府大阪市東淀川区3-33-18 TEL 06-6380-2525

東京本社 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL 03-5561-1315

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、
ワンランク上のラグジュアリー空間と
心地よさを演出します。

■ 5月GW明け以降 横浜市磯子区中原2-1-19 **NEW** TEL:045-770-4182

■ 5月GW明け以降 前橋市紅雲町1-22-2 **NEW** TEL:027-243-8241

■ 5月GW明け以降 高崎市京目町176-2 **NEW** TEL:027-350-8241

■ 厚木支店 厚木市酒井2087-14 TEL:046-228-5550

■ 大宮支店 さいたま市見沼区東大宮7-41-1 TEL:048-688-1740

■ 盛岡支店 盛岡市上堂1-6-5 TEL:019-648-2777

■ 東大和支店 東大和市立野3-640-1 TEL:042-590-5770

会務日誌

- 4月18日 新規指定・指定更新集団指導がワークプラザ勝田にて開催された。
対象医療機関数 新規指定 20 指定更新 55
- 4月18日 第1回広報委員会を開催。会報5月号の編集・校正、会報6月号の編集、次期レディースコーナー執筆候補者の相談、会報の顔写真掲載の本人承諾について協議を行った。
出席者 柴岡広報部長ほか3名
- 4月18日 第1回理事会を開催。入会申込みの受理、日本歯科医師会・日本学校歯科医会・日本歯科医学会会長表彰候補者の推薦、働き方改革の講習会開催についての要望書、第23回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学会大会の後援、いばらき国体出展ブースでの歯科啓発活動事業、茨城県歯科医師会役員選挙実施要領（案）について協議を行った。
出席者 森永会長ほか18名
- 4月19日 県地域医療構想調整会議（県医療審議会）が県庁舎にて開催され、地域医療構想の進捗状況ほかについて協議が行われた。
出席者 森永会長
- 4月21日 本会主催の健康フォーラム「口からはじまる健康（健口）長寿」を常陽藝文センターにて開催。県保健福祉部技監兼古河保健所長で県立中央病院・県地域がんセンター 名誉がんセンター長の大谷幹伸先生が「がん検診の大切さ」について、公益財団法人日本対がん協会会長で国立がんセンター名誉総長の垣添忠生先生が「口からものを食べる幸せ」についてそれぞれ講演された後、ディスカッションを行い、最後はテノール歌手志摩大喜氏のミニコンサートで盛況のうちに幕を閉じた。
参加者 236名
- 4月21日 第1回学術委員会を常陽藝文センターにて開催。健康フォーラムの反省、第27回茨城県歯科医学会誌の進捗状況、SAS講習会、シンポジウム、次回栃木県歯科医学会の演者について協議を行った。
出席者 安藤学術委員長ほか7名
- 4月24日 県学校保健会監査が県メディカルセンターにて開催された。
出席者 征矢県学校保健会監事
- 4月24日 県ユニセフ協会理事会が県JA会館にて開催された。
出席者 森永会長
- 4月25日 日本歯科医師会第29回理事会が日歯会館にて開催された。
出席者 森永日歯代議員会副議長
- 5月 9日 第1回学校運営委員会を開催。運営委員の紹介、国家試験結果、新入生、次年度入試日程、オープンキャンパス、体験入学日程等について報告を行った。

出席者 森永会長ほか12名

- 5月 9日 第1回講師会を開催。講師・職員の紹介、単位未修得者の経過、国家試験結果、新入生、次年度入試日程、オープンキャンパス、体験入学日程等について報告を行った後、授業の進め方等について意見交換を行った。

出席者 征矢校長ほか18名

- 5月 9日 集团的個別指導が水戸生涯学習センターにて開催された。

対象医療機関数 33

- 5月12日 第2回社会保険正副委員長会議を開催。第2回委員会、施設基準研修会、理事会、審査内容、8月以降の委員会開催日について協議を行った。

出席者 榊社会保険部長ほか3名

- 5月12日 第2回社会保険委員会を開催。施設基準研修会、疑義について協議を行った。

出席者 榊社会保険部長ほか19名

- 5月12日 施設基準の届出に必要な研修会を開催。「今、歯科医師が知っておきたいこと」の演題で日本大学松戸歯学部歯科外科系口腔外科講座教授で歯学博士の小宮正道先生が講演された。

受講者 95名

- 5月15日 日学歯選挙管理委員会が日歯会館にて開催され、理事・監事選挙の資格審査について協議が行われた。

出席者 森永日学歯総会議長



歯科特殊健康診断認定歯科医師講習会

地域保健委員会 葛城 康維

日時 平成31年4月11日（木）

18時30分～20時30分

場所 茨城県歯科医師会館3階講堂

1 開会 地域保健委員 深谷 聖（司会）

2 挨拶 地域保健担当理事 北見英理

この講習会も4年目になり、200名以上の登録医を数えます。「歯科医師の資質の向上」と「産業歯科保健の推進」を目的とする。

また、2019年度の産業保健関係のスケジュールについての案内があった。

3 講師紹介 地域保健委員 柴崎 崇

戒田敏之先生：茨城県歯科医師会産業口腔保健統括マネージャー

4 講演 「歯科医師による特殊健康診断」

はじめに、「茨城県では、日本歯科医師会主催による産業歯科研修会や、産業医学講習会など、他県と比べて多くの先生に受講していただいている。これを機に産業保健というものに親しんでいただきたい。本日は初めての先生もいらっしゃるが、もう2回目という方もいるので、この2年間特殊健診をやっていた中での問題点や、事業者からの連絡も含めてお話ししたい。」と述べられました。

1) 特殊健診では、まずどこを見るのか？

「齲蝕を治すとか、歯周病を治すとかの健診ではない」という事を知ってほしい。

2) 特殊健診は、法律にのっとって健診をしなければならない。

①労働安全衛生法

②労働安全衛生法施行令

③労働安全衛生規制

以上3つで特殊健診が成りたっている。

3) 口腔を見ただけで、診断は出来るのでしょうか？（聞くべき問診内容）

①作業歴（現在だけでなく、過去も）

②作業頻度（取扱い物質の使用量、作業方法）

③保護具の使用状況：換気の有無

4) 3管理を知らずに現場に行ってはならない。「問診と口腔診査だけで、歯牙酸蝕症



等の化学物質の暴露を判定することはできない。」

- ①作業環境管理（作業場の空気の管理）
- ②作業環境（保護具等）
- ③健康管理（歯科では口腔内の状態）

5) 特殊健康診断とは？

特殊健康診断は、治療管理ではなく化学物質管理である。作業管理と作業環境管理がきちんと行き届いているかを確認するための健康診断である。＞職場巡視が重要。

6) 職場巡視とは？

歯科医師による職場の簡易調査職場巡視の際は、以下の3つを確認。

- ①特定化学物質の作業主任の掲示。
- ②SDS（セイフティデータシート）の確認。
- ③GHS（化学品の危険有害性を示した世界共通のマーク）が貼ってあるか。

7) 産業保健における健康診断の意義とは？

特殊健康診断の現場は、危険な場所である。＞就労者の行動や人格まで見ることで「就業の可否」を問う。

8) 長期間にわたり、齲蝕や歯周病を放置している就労者が健診にきたら？

- ①歯科特殊健康診断の実施＞（多くは、下顎前歯部の酸蝕症の有無）。
- ②2管理を勘案して、口腔所見を考える。
- ③産業保健的な問題点を考える。＞（心身の健康状態や生活環境等をやんわりと聞く）。
- ④齲蝕や歯周病のアドバイス＞（これは最後に見る）。

9) なぜ口腔内写真が必要なのか？

- ①写真を活用することで、経時的な変化がわか



ることがある（口腔粘膜も記録しておくことが大切）。

- ②小規模事業所では、非正規労働者も多くみられるので、雇入れ時の健診で口腔内写真を撮っておくことも大切（事業所の保護に役立つ）。

10) 健診結果の状況について（有所見者率歯、ほぼ1%）。

- ①齲蝕、歯周病健診とは異なり歯の酸蝕症や化学物質による口腔内の異常がないことが通常である（もし異常があれば、事業者にとって重大な問題となる）。
- ②診断基準の訂正についての説明＞資料参照（dental erosion）。

11) 担当歯科医師の職務として大切なことは？

- ①事業者との打ち合わせ＞事業の内容を知ることが大切。
- ②事業者と連絡を取り、担当者を確認すること。
- ③事業者を訪問し雰囲気を感じ取ることも大切。
- ④就労者が50人未満の事業所では産業医もいないので、職場巡視の必要性も説明することが大切。

12) 特殊健診実施歯科医師の統一化について。（問題事例6例と改善点）

特殊健診は、6か月ごとに1回、定期的な実施が義務付けられているが、精度管理上同一の歯科

医師が経過観察をしていくことが望ましい。

13) 最後に、産業保健の健康診断の目的を考える。

歯科保健が定期健康診断に追加されるためには何が必要か？必要な発想とは何か？

「齲蝕や歯周病だけを診るのではなく、口腔内の状況から心身の健康をサポートして（きちんと見てあげて）、就業の可否にかかわるようなセルフチェックをしてあげる歯科健診ができるようになれば良いのではないか。」とまとめられました。

5 質疑、応答

問) 地域保健委員 大里先生より：

「昨年、戒田先生にお付き合いいただき特殊健診を行いました、6か月が経ち2回目なのです

が、職場巡視は行った方がよいのでしょうか？」

答) 戒田先生：

「やっぱりそれは見てください。事業所の色々な所も変わることもあるので、必ず見る癖をつけてください。そうすると事業所の方も、必ず来たらセットでやるもんだな、という考えになるので、2回目も巡視は行ってください。」

> (ありがとうございました：大里)

6 認定証授与

受講者を代表して、荻野義重先生に北見理事より認定証が授与されました。

7 閉会 地域保健委員 深谷 聖



健康フォーラムだより

(公社)茨城県歯科医師会 健康フォーラム 口からはじまる健康 (健口) 長寿

学術委員 山崎 貴也

4月21日常陽藝文ホールにて健康フォーラム「口からはじまる健康 (健口) 長寿」が開催されました。茨城県保健福祉部技監兼古河保健所長、茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター名誉がんセンター長の大谷幹伸先生と公益財団法人日本対がん協会会長・国立がんセンター名誉総長の垣添忠生先生が講演されました。

まず森永和男会長より挨拶があり、健康寿命の維持において予防医療の大切さ、および向き合い方についてのお話をされました。



最初に大谷先生より「がん検診の大切さ」をテーマとして歯周病と全身疾患、特にがんとの関連、がんのミニ知識、がん健診の3つにわけて講演されました。

口腔ケアはがんだけではなく健康全体の維持の為に重要で早期発見、早期治療で9割以上のがんが治る。その為にも定期的な健診を受ける事が大切で医科歯科連携をもっと強固にしていける事が

重要であるなど、クイズ形式で、とても興味深い内容でした。



次に茨城県保健福祉部の木庭 愛部長より来賓挨拶として未来に希望を持つための新しい茨城作りに関して今後の取り組み方についてのお話をされました。

続いて垣添先生より「口からものを食べる幸せ」をテーマに講演されました。歯科医療の重要性、口からものを食べることの深い意味、国民皆保険制度を考えるとという3つにテーマを絞って講演されました。歯・口腔の健康は、個人の生涯にわたるQOLの保持に欠かすことのできない要素であり、よく噛んで食べるという習慣は健康や長寿のためにすべての世代で重要であり、実際の症例ビデオ(誤嚥性肺炎で寝たきり状態の患者様が、経口摂取を開始し2ヵ月のリハビリテーションで自力歩行して退院し、その後6ヶ月後に海外旅行)を用いて説明されました。また幼少期の教育的介入の効

果が30代半ばの健康状態に強く影響を与えるため、早い段階での予防歯科治療及び指導が大変重要であると強調されていました。実際に垣添先生が、がんサバイバー支援を呼びかけて九州から北海道まで3500kmを縦断する動画や1枚の絵から様々な事を考える等、とても惹きつけられる内容でした。



森永会長を座長としてディスカッションでは県民からの積極的な質問に対し垣添先生、大谷先生共に真摯に回答し、とても和やかなムードでした。



最後にテノール歌手の志摩大喜さんによるミニコンサートがあり、本格的なオペラから大衆的な楽曲まで会場全体を歩きながら歌われ盛大で華やかなコンサートとなりました。



今回の健康フォーラムの参加者は合計236名と大盛況の中、行う事ができました。今後も県民に有意義な時間を過ごして頂けるよう進めていきたいと思っています。



【2019年度 入学式挙行】

4月8日（月）午前10時から茨城県歯科医師会館講堂において、茨城歯科専門学校の入學式が、歯科衛生士科53名、歯科技工士科8名（うち女子6名）の新入生を迎え、関係者約250名を集めて挙行されました。

式は、岡崎恵一郎副校長の司会により進められました。国家斉唱・校歌斉唱に続き小澤永久、野口知彦両科教務副部長が入学生の氏名点呼を行い、征矢亘校長が入学許可を宣言されました。

その後、森永和男名誉校長より「入学された皆さんは、これから思いやりの心を持って学校生活を楽しく過ごしていただきたい。そして、全員が国家試験に合格し夢に向かって社会人として羽ばたいてほしい。」と訓辞を述べられました。

式辞は征矢亘校長が「歯科衛生士・歯科技工士を目指す皆さんは地域社会に貢献できるよう自覚を持って勉学に励み、また、自分の知識や経験を超えた難問に答えられる訓練もしておいてください。」と述べられました。



式辞を述べる征矢学校長

来賓からの祝辞として、西野雅之県歯科技工士会長、芹澤鏡子県歯科衛生士会長から入学のお祝いとともに激励の言葉を賜りました。

また、来賓の小河原智美歯科衛生士科同窓会「真珠会」会長、瀧川三雄歯科技工士科同窓会「みわ会」会長、ご出席頂いた講師、学校役員及び専任教職員の紹介が行われました。

このあと、入学生代表の薄井明日香さん（歯科衛生士科）が「学則を守り、学生の本分に従って学業に精励します。」と誓ったあと、在校生を代表して伊藤南海さん（歯科技工士科）が「私たちと共に、互いに切磋琢磨しながら学業成就のために



誓いの詞を述べる薄井さん



歓迎の詞を述べる伊藤さん

努力しましょう。」と歓迎の詞を述べました。

次いで、平成30年度特待生の表彰が行われました。

◇歯科衛生士科2年

岩渕未夢加さん

◇歯科衛生士科3年

小島彩音さん

◇歯科技工士科2年

伊藤南海さん

以上両科の3名に対して学校長から認定証書と

ともに褒賞金が授与されました。

入学生は記念撮影のあと、まだ緊張のとけない様子で各科教室へ移動し、これからの学校生活についての説明を受けました。

また、保護者の方々には懇談会が設けられ、教職員の紹介、教育方針、年間の予定、国家試験に向けての対策、家庭との連携などについて説明がなされ、質疑応答を交えて相互の理解を深めました。

(文責 川崎)

◆◆◆ 水戸市歯科医師会 イブニングセミナーのご案内 ◆◆◆

水戸市歯科医師会では「スタッフとともに学ぶ」というテーマのもとイブニングセミナーを企画しております。今年度は、高柳篤史先生をお招きし、患者さん個々の口腔内状況やブラッシングスキルに合わせたセルフケア支援のヒントについてご講演いただきます。歯科関係者のみならず、口腔ケアに携わる医療従事者の方々にもご聴講いただけますようよろしくお願い致します。

演 題：セルフ・ケアのエビデンスとフッ化物の応用

講 師：高柳 篤史（たかやなぎ あつし）先生

高柳歯科医院

スタディーグループ「はみがき学の会」主幹

東京歯科大学客員准教授

日本大学松戸歯学部兼任講師

日 時：令和元年 7 月 2 日（火曜日） 19：00～21：00

場 所：茨城県歯科医師会館 3 F 講堂

参加者：歯科医師、歯科医療従事者、医療従事者

会 費：無料



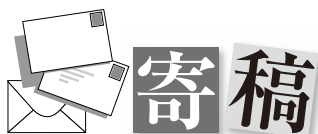
◆◆◆ 講演要旨 ◆◆◆

生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために、口腔機能を保つことが極めて重要であることが広く社会的にも認識され、歯科専門家による日常のセルフ・ケア支援の重要性が高まっております。世の中に氾濫している保健情報の中には、科学的に誤った情報も少なくありません。以前は正しいとされていたことであっても、歯科医学の進歩により、後に誤りであったことが判明したことも多く存在します。そして、誤った情報の発信源が歯科専門家であることも少なくありません。そのため、私たち専門家が情報を発信する場合には、常に、細心の注意を払う必要があります。そこで、今回の講演ではセルフ・ケアに関するエビデンスをご紹介します。

また、近年、口腔保健の分野においても各国で科学的根拠に基づくガイドラインがまとめられています。それらの中で、フッ化物によるう蝕予防効果は科学的根拠が明確になっており、特に、WHO（世界保健機構）は先進諸国のう蝕の減少には、フッ化物の普及が大きく寄与しているという見解を述べています。しかしながら、小児のう蝕が減少していますが、高齢者の根面う蝕の予防は超高齢社会における口腔保健の最大の課題の一つです。根面う蝕の予防においても、フッ化物の局所応用が有効であるという報告が多く存在する一方で、唾液分泌低下に伴い多数の根面う蝕が発生するような口腔環境においては、通常のフッ化物応用では予防効果が得にくいのが実情です。そこで今回、フッ化物の歯冠部および根面での反応の違いを考慮した上での、歯冠部う蝕と根面う蝕に対するフッ化物の使い方についても解説したいと考えております。

さらに、セルフ・ケアにおいては、予防に有効であることがわかっていても、患者が日常生活で継続できなければ、まったく、意味のない指導になってしまう可能性があります。そのため、利用する知見が個々の患者の生活習慣や保健指導の受容性などを総合的に配慮した上で、個々の患者にあわせたセルフ・ケア用具の選択などによる患者が受け入れやすい方法の提案について述べる予定です。

日歯生涯研修ICカードをご持参ください。



IDCゴルフ幹事30年間を振り返って

(社)水戸市歯科医師会 柴原 宏一郎

改元がなされました。30年の時を経て、平成から令和へ。

新元号、私は気に入っています。読みやすい、書きやすい、堅そうでない、ちょっとオシャレな感じ、すぐになじめそうです。今回のような皇位継承のやり方は今後も続けるべきでしょう。人生100年時代の到来で、100歳近くなって天皇の公務はきつすぎます。余力があるうちに継承するのが皆ハッピーではないでしょうか。大型連休中、我が家は皆別行動、私一人遠出なし、自宅でこの原稿書いています。

さて、10年ほど前からIDCゴルフの幹事交代を希望していましたが、この絶妙のタイミングで依頼されました。水戸地区の薄井稔先生にお願いでき、会長も村居幸夫先生から茶園基史先生に変わりました。55年強（たぶん昭和39年の東京五輪の年から始まり次回が286回）の歴史あるIDCを途絶えさせてはならないと思い頑張ってきました。保存していたコンペの成績表は、昭和44年第32回分からあります。今回、昭和の分のみ、開催コースと優勝者のみ永久保存版として会報に載せておきます。平成の30年間分は全成績を保存してありますから、次の機会があればにします。懐古趣味と言われそうですが、ゴルフを趣味としていた方には懐かしいお名前がいっぱいです。私が幹事を引き受けた30年前（平成元年）は、年6回の開催でしたが、これはきついということで年4回にし

てもらいました。1回終わるとすぐ次の準備が必要で1年中関わっている感じでした。開催コースを決めて、案内出欠の往復はがきを印刷して投函し、回収して、必ずいる返信忘れの方数名と連絡を取り、組み合わせ決め、参加者とゴルフ場へFAX連絡して、賞品発注して、当日のパーティの司会をして1回を終えます。当初は、今はなき伊藤歯科商会社長の伊藤甫さんに事務局をしていただきました。その後会計は薄井稔先生が担当していただき助かりました。地区幹事として、高野秀勝先生、茶園先生にも連絡役をお願いしました。当院のスタッフには頼まず一人で夜やってるのを家内が見ていて、いつまでやるの、替わってくれる人いないの、世代交代も必要よと、10年来言われ続けました。でもゴルフからは足を洗えず、今思うにさほど苦痛でなかった気がしています。

初代会長是水戸の小船不二男先生。昭和57年頃から友部の泉川勇先生。その頃は歯医者が良い時代だったか、12月忘年コンペの賞品は全員に立派な新巻サケ、忘年会を笠間の料亭で豪勢にしたことが懐かしく思い出されます。IDCの中心的存在で、その後会長を務めた竹内昌司先生の100回時（昭和56年7月会報）の寄稿文を載せますので、併せてお読みください。200回記念コンペは、サイパン島へ遠征。250回記念コンペは一泊2プレーで栃木県のホウライCCとサンヒルズCCで開催。300回記念はどこか、あと3年後くらいが楽しみです。

茨歯会ゴルフ活動について

IDC幹事 竹内昌司

IDC、100回記念大会では、大洗ゴルフ場にて当日梅雨期にも拘らず、微風薄日のさす天候に恵まれ記念大会のため、新ペリヤ方式にてハンデ算出18ホールの部と27ホールの部のストロークプレーで競技を行った。競技終了後、大貫の「浜寿し」にて100回記念パーティ及び表彰式を行い、18ホールの部では徳永一充先生が(39、40、HD9.6)で優勝。ベストグロスに大金正幸(38、38)村居幸夫(37、39)先生。27ホールの部では志村優先生が(38、44、35、HD9.6)で優勝、ベストグロスに竹内昌司(39、38、39)、その他BB賞、飛賞、DC賞NP賞、珍プレー賞、特別賞等が各先生方に授与され盛会にて終了した。

ここで茨歯会のゴルフ活動について説明致します。先づIDCは小舩不二男会長以下、幹事に大金正幸、竹内昌司、他に会員は約80名、年に6回県内のゴルフ場でコンペを行い会員の親睦を高めております。又遠征コンペを昭和43年にハワイ(カナバリ)52年に北海道(輪厚、真駒内)54年に韓国(ニュー高麗)55年にハワイ(ワイアラエ・マカハ・ロイヤルカナバリ)、今年も11月17日出発5泊7日にてハワイ島の世界三大リゾートホテル

ルのマウナケアビーチホテルに宿泊、ゴルフを行うことに決定致しました。将来はカナダ、オーストラリア、ニュージーランド方面も予定計画しております。

その他、茨歯会ゴルフでは地区対抗ゴルフ大会が厚生部とIDCの共催で毎年行われ、本年は10月15日に大洗ゴルフ場で県北地区当番にて開催されます。又、1都7県による関東歯科医師親善ゴルフ大会が毎年各県当番持ち回りで開催され、20余名の代表選手が参加しています。先生方には各々、色々な趣味をお持ちでしょうが、我々の職業にはゴルフが一番適したスポーツと思われ、体力、技能のみでなくメンタルな面が大きく左右しババニングも有り、ゲーム性に富んだスポーツであり、年令にも関係なく、茨歯会の会員であれば誰でも参加できますので、新入会員の先生方又、ゴルフをこれから始める方への入会をお待ちしていますので希望があれば、水戸の竹内、大金又は茨歯会の方へご連絡下さい。

尚、11月のハワイツアーはゴルフを行わない方の参加も結構ですので、希望者は御一報下さい。

竹内昌司先生(昭和56年7月会報)の寄稿文

IDCの活動で関東地区歯科医師親善ゴルフ大会への参加があります。1都7県が参加し、年1回持ち回り開催で51回の歴史があります。栃木県から始まり、第2回が水戸ゴルフ、そのあとの当県当番は、大洗、大利根、また大洗、富士笠間、穴戸ヒルズ、江戸崎と7廻りまで来ました。どの県もその県を代表するような名門コースでの開催ですので、それに参加するのも楽しみでした。富士笠間、穴戸ヒルズ、江戸崎では大会実行委員長を務めたことも良い思い出です。以前は東京都、最

近は埼玉県が強く、当県は残念ながら団体戦優勝がありません。私が知るところでは2回ほど団体戦2位がありますが、優勝県とはまだ差があるようです。悲願達成を願っています。関プロ大会時のエピソードもたくさんありますが、次回のお楽しみとします。最近ゴルフ人口も高齢化して、数年前にはこの大会の存続の是非が話題になりました。IDC同様いつまでも続くことを願っています。今年、千葉県当番で5月30日(木)、鶴舞カントリークラブで開催されます。

成績表（優勝者のみ記載）

初期の頃は1.5ラウンドが多かった。
大洗ゴルフが圧倒的に多い。県外、外国遠征もしていた。

	回数	会場	優勝者	ハーフ	ハーフ2	ハーフ3	トータルグロス	ハンデ	ネット
S44年	32回	取手国際	北澤 毅	46	43	39	128	27	101
	33回	アジア下館	秋田 智雄	40	44	40	124	10.5	113.5
S45年	34回	大洗	大澤 壽一	50	55	58	163	54	109
	35回	袖ヶ浦	小舩不二男	56	47	52	155	40.5	114.5
	36回	桜	葛城 博	54	48	53	155	45	110
	37回	大洗	椿 守夫	50	49	53	152	52.5	99.5
	38回	大洗	小野瀬 昇	36	40	39	115	9	106
	39回	水戸	石川 誠	48	46	53	147	42	105
	40回	大洗	寺門 乙二	54	55	55	164	54	110
S46年	41回	平塚富士見	塩原 一郎	51	56		107	36	71
	42回	筑波	大久保泰男	41	46	42	129	24	105
	43回	桜	高橋 正行	43	44	45	132	27	105
	44回	大洗	葛城 泰山	40	36	40	116	9	107
	45回	アジア下館	伊藤 甫	41	40		81	9	72
	46回	金乃台	榊原 勝喜	46	43	40	129	18	111
	47回	水戸	関根 健夫	52	57	51	160	52.5	107.5
S47年	48回	大利根	志村 優	37	39	40	116	15	101
	49回	大洗	榊原 勝喜	41	41	40	122	15	107
	50回	アジア下館	富塚 浩	41	40	38	119	12	107
	51回	大洗	塩原 一郎	55	51	48	154	42	112
	52回	水戸	横田 春臣	53	50	56	159	48	111
	53回	霞台	榊原 勝喜	40	36	39	115	9	106
	54回	甲府国際	秋田 智雄	35	42		77	8	69
S48年	55回	大洗	榊原 勝喜	41	44	43	128	9	119
	56回	アジア下館	志村 優	41	41	39	121	9	112
	57回	龍ヶ崎	出久根崇夫	43	44	44	131	19.5	111.5
	58回	大洗	高柳 辰美	49	46	50	145	43.5	101.5
	59回	大利根	色川 卓男	39	43	41	123	28.5	94.5
	60回	セントラル	吉田 茂	39	47		86	20	66
	61回	宍戸国際	勝村 佳雄	43	44	44	131	21	110
S49年	62回	大洗	宮山 徹	52	52	61	165	54	111
	63回	東の宮	目黒 英治	47	48	51	146	39	107
	64回	白帆	大金 正幸	43	40	42	125	16.5	108.5
	65回	大洗	宮山 徹	49	47		96	29	67
	66回	水戸	村居 道夫	52	49	48	149	43.5	105.5
	67回	龍ヶ崎	白井 健祐	46	44		90	14	76
	68回	大洗	尾山 龍雄	49	50	47	146	31.5	114.5
S50年	69回	益子	竹内 昌司	37	39	37	113	12	101
	70回	塩原	村居 幸夫	49	47	50	146	36	110
	71回	塩原	志村 優	40	42		82	8	74
	72回	大洗	白井 健祐	41	40		81	14	67
	73回	宍戸国際	大金 正幸	40	40		80	8	72
	74回	ダイヤ	椿 守夫	44	42	51	137	30	107
	75回	大洗	大久保泰男	44	46		90	10	80
S51年	76回	輪厚	椿 守夫	44	49		93	15	78
		真駒内	竹内 昌司	41	44		85	8	77
	77回	東筑波	野上 雄一	52	50	47	149	37.5	111.5
	78回	宍戸国際	村上 正	47	52		99	30	69
	79回	大洗	葛城 泰山	40	39		79	5	74
	80回	大洗	薄井 彰	52	48		100	28	72
	81回	霞ヶ浦国際	勝村 佳雄	40	38	41	119	15	104
S52年	82回	総武	小舩不二男	47	47		94	23	71
	83回	水戸	志村 優	37	36		73	8	65
	84回	セントラル	泉川 勇	49	45		94	23	71
	85回	宍戸	小舩 秀文	40	43		83	15	68

	回数	会場	優勝者	ハーフ	ハーフ2	ハーフ3	トータルグロス	ハンデ	ネット
S54年	86回	富士笠間	目黒 英治	41	50		91	22	69
	87回	大洗	大金 正幸	40	42		82	9	73
	88回	韓国ニューコリア	重藤 一良	87	86		173	32	141
	89回	新茨城	関根 健夫	47	46		93	27	66
	90回	龍ヶ崎	重藤 一良	42	40		82	16	66
	91回	宍戸	村居 道夫	40	43	45	128	27	101
S55年	92回	大洗	大田原正洋	46	47		93	27	66
	93回	水海道	本間 雅彦	46	51	48	145	42	103
	94回	富士笠間	重藤 一良	49	48	45	142	33	109
	95回	大洗	志村 優	38	39		77	8	69
	96回	アジア下館	中沢 昭一	43	53	47	143	36	107
	97回	大洗	出久根 賢	47	49		96	27	69
S56年	98回	大洗	鈴木 昌利	47	41		88	18	70
	99回	江戸崎	斎藤 澄夫	44	44	49	137	34.5	102.5
	100回	大洗	徳永 一允	39	40		79	9.6	69.4
			志村 優	38	44	35	117	9.6	107.4
	101回	大洗	秋田 智雄	40	35	39	114	10.5	103.5
	102回	宍戸	鈴木 昌利	38	42		80	13	67
S57年	103回	大洗	村居 道夫	37	44		81	11	70
	104回	ハワイ、台湾	椿 守夫	スコア不明					
			大金 正幸	スコア不明					
	105回	東筑波	勝村 佳雄	43	41	42	126	15	111
	106回	茨城	野上 雄一	43	40	44	127	22.5	104.5
	107回	那須	永木 修二	50	44	44	138	30	108
S58年	108回	大洗	勝村 佳雄	41	39		80	10	70
	109回	宍戸	山口 悦郎	スコア不明					
	110回	大洗		雨天中止					
	111回	大洗	重藤 一良	40	45		85	11	74
	112回	金乃台	保科 博邦	45	44		89	28	61
	113回	東の宮	横須賀 均	52	55	49	156	42	114
S59年	114回	大洗	田崎 之光	49	45		94	28	66
	115回	富士笠間	泉川 勇治	50	52		102	29	73
	116回	宍戸	横田 春臣	48	46		94	24	70
	117回	大洗		雨天中止					
	118回	霞ヶ浦国際		雨天中止					
	119回	大利根	中沢 昭一	42	42		84	16	68
S60年	120回	大洗	葛城 博	43	43		86	19	67
	121回	富士笠間	石井謙二郎	49	53	60	162	54	108
	122回	宍戸	色川 卓男	41	39		80	7	73
	123回	大利根	江橋 真一	50	46		96	24	72
	124回	新茨城	小島建二郎	49	41		90	24	66
	125回	ジュンクラシック	本間 雅彦	42	41		83	14	69
S61年	126回	セントラル	勝村 佳雄	40	39		79	10	69
	127回	宍戸	重藤 一良	41	39		80	8	72
	128回	大洗	榊 正幸	43	43		86	13	73
	129回	富士笠間	榊 正幸	40	40		80	13	67
	130回	茨城	柴原宏一郎	40	40		80	12	68
	131回	グランドスラム	徳永 一允	36	36		72	4	68
S62年	132回	笠間東洋	本間 雅彦	42	38		80	10	70
	133回	大洗	白井 健祐	45	42		87	14	73
	134回	大洗	飯野 守康	52	51		103	30	73
	135回	江戸崎	飯野 守康	51	48		99	24	75
	136回	富士笠間	重藤 一良	39	36	38	113	7.5	105.5
	137回	大洗	江橋 真一	43	41		84	19	65
S63年	138回	セントラル	伊藤 幸夫	スコア不明					
	139回	宍戸	横須賀一郎	52	48		100	27	73
	140回	大洗	高野 俊行	40	39		79	12	67
	141回	富士笠間	大峰 秀樹	46	42		88	18	70
	142回	茨城	長尾 正英	44	39		83	10	73
	143回	サニーフィールド		スコア不明					
	144回	スプリングフィールズ	富永 明弘	55	46		101	36	65
	145回	宍戸	大内田輝寿	49	44		93	23	70

－ メモリアルギャラリー －



みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,148名
2種会員 64名
終身会員 128名
準会員 5名
合計 1,345名

会 員 数

平成31年4月30日現在

地 区	会員数(前月比)
日 立	116
珂 北	145
水 戸	156 +3
東西茨城	72 -1
鹿 行	105
土浦石岡	179 +4
つ く ば	129 +2
県 南	178 +2
県 西	155 +1
西 南	105
準 会 員	5
計	1,345 +11



茨 歯 会 報

発行日 令和元年 6 月
 発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地
 電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075
 ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>
 E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進
 編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。